

ご近所のお医者さん

□
745
□

富田林病院皮膚科部長 中川浩一さん 一富田林市

検診始めて20年

私は20年前、大学病院から富田林病院へ赴任したのを機に、地域貢献の一環として、皮膚がん検診を始めました。検診には、ほくろやシミが皮膚がんではないかと心配される方が多く来られます。

検診では「ダーモスコピー」という器具を使用します。虫眼鏡のように病変を大きく拡大するだけ

でなく、皮膚の中をある程度の深さまで透視します。皮膚の中のメラニン色素の分布などから、通常のほくろやシミと皮膚がんを見分けるのです。



皮膚がん早期発見を

診察結果の判定は、①皮膚がんの可能性は極めて低い②皮膚がん、あるいは皮膚がんの始まりの可能性が高いため詳しい検査を推奨③皮膚がんの治療が必要——の3段階で判定しています。

実は、皮膚がんは1種類の病気では

なく、いくつかのタイプがあります。例えば、日光角化症と呼ばれる紫外線の影響が最も大きい皮膚がん。他には、顔に発生しやすく、黒く光沢のあるイボのような形をしている基底細胞がんや、最も悪性度が高く「ほくろのがん」と呼ばれることもある悪性黒色腫などが挙げられます。悪性黒色腫は、体のどこにもできますが、日本人の場合は足の裏にできることが多いです。

2005年から現在まで約20年間に243回の皮膚がん検診を行い、2491人の方を診させていただきました。受診された方の年齢の分布は0歳から94歳(平均52.8歳)と幅広く、女性が1613人、男性が878人でした。実際にがんと診断されたのは63人で、悪性黒色腫の方が3人、日光角化症の方は29人、基底細胞がんの方が26人でした。約40人に1人の割合なのでかなりの確率ではないでしょうか。

当検診の特徴

は、皮膚がんの可能性が低い場合でも、患部の写真を添付した報告書をお渡ししている点です。ご自身で写真と見比べることで、わずかな変化をいち早く発見することができます。

皮膚がんは早期に発見すれば、治療も比較的容易で命に関わることもありません。今後も「皮膚がんゼロの町・富田林」を目指し早期発見に努めてまいります。